

いろいろとり

緑区

PHOTO BOOK

緑区フォトコンテスト

「いろとりどり **緑** 区」

2020年・2021年の2回にわたり開催し、名古屋市緑区の風景やまちなみ、人々の様子と景観など、「緑区に行ってみよう」「現地で見てみたい」と思わせるような、とっておきの写真をテーマに募集。合わせて900点以上の素晴らしい作品が集まりました。このフォトブックでは、その中から厳選された受賞作品を通して、これまでのマップやガイドブックとは一味違う緑区の魅力をお伝えします。

どうぞ、気軽にページをめくってみてください。

緑区のいろとりどりの良さが皆さんへ届きますように。

／もっと知りたい／



緑区観光推進協議会
公式ウェブサイト

「名古屋市緑区」
と聞いて **どこ** を
思い浮かべますか？

旧宿場町の **# 鳴海**
日本遺産の **# 有松**
神話に彩られた **# 大高**
信長と義元が戦った **# 桶狭間**
など…



武将

区内の広い範囲に数多く残る「桶狭間の戦い」ゆかりの史跡は、歴史好き必見。「桶狭間古戦場まつり」では迫力満点の甲冑行列などが楽しめます。

絞り

国の伝統的工芸品「有松・鳴海絞」の産地で、絞り体験やお買い物ができるお店もたくさん。6月最初の土日の「有松絞りまつり」では、街中が絞りのテキスタイルに彩られ、さまざまなイベントでとても賑わいます。



緑区フォトコンテスト

募集期間：2020年9月1日～11月30日

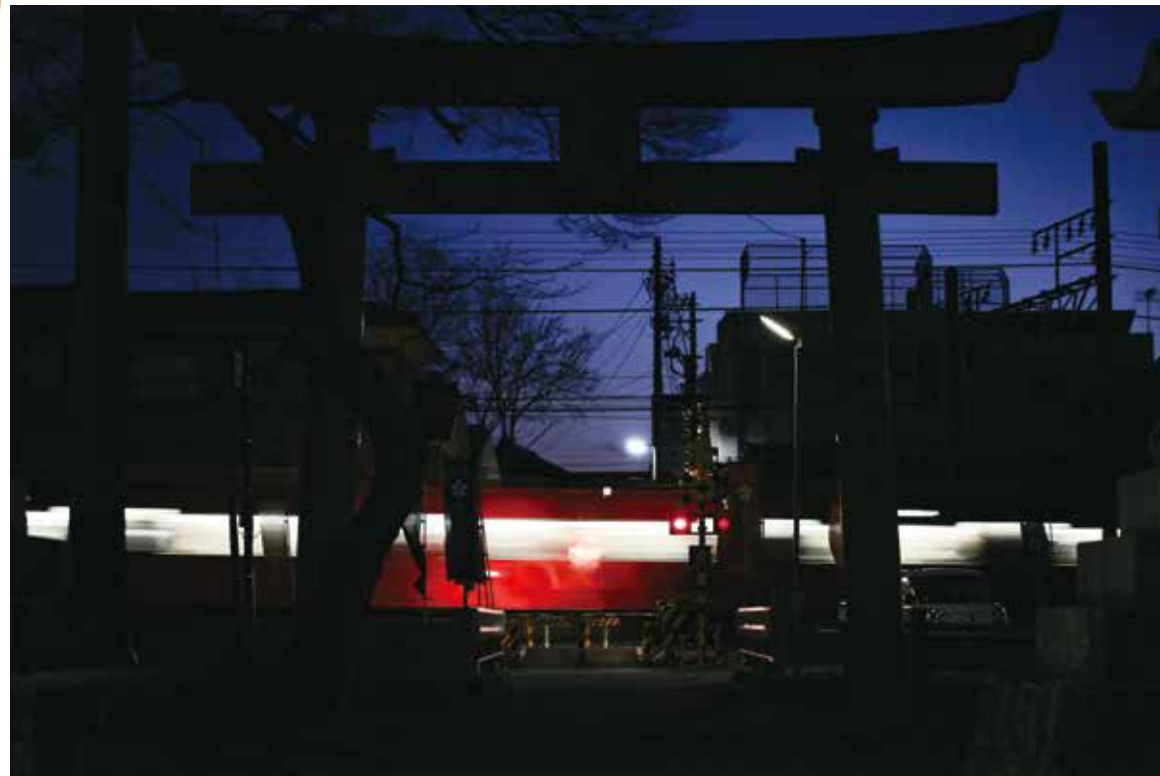
応募点数：505点

審査員：三浦 誠、吉永 陽一、石川 裕修（以上、公益社団法人日本写真家協会 会員）、柘植 佑好（緑区観光推進協議会会長）、菊池 文泰（名古屋市緑区長）

協力：株式会社シグマ、ソニーストア名古屋



有松天満社



「闇を駆ける」
神谷 佳吾



東丘歩道橋



「名二環」
岡本 邦弥

区長賞

2020

3



大高緑地



「大木」
井上 来望

シグマ賞

2020

4



有松



「夫婦水入らず」
大村 丈彦

5



氷上姉子神社

ソニー賞

2020



「神の遣い」
西田 五徳



扇川川浴い



「夜のさんぽ」
成瀬 裕美



有松



「歴史ある紋りと街道」
浅井 延子



有松



「畏怖」
羽根 靖二



有松



「掌の年輪」
岡田 哲



大高緑地



「恐竜と遊ぶ」
矢田 徳夫



有松



「有松の街かど」
田中 博



「ハロウィン騎士、ディノアドベンチャーへ」
神戸 晴香



「まずはお手本」
猪島 伸彦



「恐竜の棲む丘」
河内 聡



「お寺に明かりが灯る頃」
伊藤 かほり



「夜を駆ける」
園田 翼



「いざ！桶狭間へ」
谷本 英一



審査員・三浦 誠

ご応募いただいた皆様の熱意ある作品は5名の審査員が厳正に審査をさせていただきました。

緑区内で撮影された写真という限定の中、作者が何を観察し何に心を動かされたかを競う展開になりました。カメラを持ち撮影に出かけ撮影者自身の感性が表現された写真が多く見られ、単純に風景・街並み等を撮影した広告絵葉書的な写真は少なかった印象が有ります。時として写真は複写機の役割(コピー)を単純に果たしてしまいます。対象物の良さを複写するのではなく、撮影者自身の観察発見感性が表現作品として評価されています。

次回募集に向けて、緑区内をご自身の目で発見観察し感性豊かな作品に挑戦してください。

審査員・吉永 陽一

緑区は、古からの街道筋や有松絞りといった歴史、人々が集い生活する街、動脈となる主要道路や鉄道など、様々なものが集まる。カメラを通してみると、様々な視点があるのではなかろうか。緑あってフォトコンテストの審査を担当し、事前に自分の目で緑区を下見して、これは楽しそうな作品が集まりそうだ期待した。結果は、私が思ったとおり緑区の様々な表情が集まった。印象的だったのは、家族や友人など身近な人を主人公にして、ストーリーを作り上げた作品が見受けられたことだ。セオリーに囚われない作品作りをする応募者の柔軟な発想に、あらためて感心させられた。

コンテストをきっかけに、「これ気になる」と感じたものを捉えていくと、身近な緑区の姿が新鮮に見えてくるだろう。